

平成三十年度版 国語学びノート 中学校版

ワークシートの使い方

この学びノートは、学年ごとに問題がまとまっています。

練習問題は1と2に分かれており、練習1の復習を

練習2で行うことができます。



【中学一年生】（1～28）

- 一 作文の練習（原稿用紙の使い方）（1～5）
原稿用紙への記入の仕方（改行、句読点のつけ方など）の基本的事項を確認できる練習シートです。
- 二 話し言葉・書き言葉（5～9）
作文にふさわしい書き言葉、または正しい言葉に直す練習問題です。普段何気なく使っている言葉を話し言葉・書き言葉という視点から見直すことができます。
- 三 作文の練習（接続詞の活用）（9～12）
接続詞に注目して、前後の内容やつながりから短作文を完成させる練習シートです。
- 四 文の組み立て（13～16）
品詞や文末表現に着目して、正しい文章を完成させる練習シートです。
- 五 表現技法（17～20）
表現技法の基本的事項の練習問題です。
- 六 詩（21～24）
詩の形式・表現方法・簡単な内容の読み取りの練習問題です。
- 七 歴史的仮名遣い（25～28）
歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す練習問題です。練習問題を解きながら、きまわりを理解できているかどうかを見直すことができます。

【中学二年生】(29～70)

- 一 近代短歌 (29～32)
近代短歌の基本知識をおさえ、表現方法や鑑賞を確認する練習問題です。
- 二 敬語の問題 (33～36)
敬語の基礎的事項の練習問題です。授業でのまとめ、テスト前の復習など、いろいろな使い方ができます。
- 三 漢文(訓点、書き下し文) (37～40)
漢文を書き下し文に直す問題です。
- 四 動詞・形容詞・形容動詞・名詞・連体詞・副詞の問題 (41～62)
それぞれの品詞の基本的事項の練習問題です。授業でのまとめ、テスト前の復習など、いろいろな使い方ができます。
- 五 助詞・助動詞の問題 (63～70)
それぞれの品詞の基礎的事項の練習問題です。授業でのまとめ、テスト前の復習など、いろいろな使い方ができます。

【中学三年生】(71～78)

- 一 俳句 (71～74)
俳句の基礎を確認するための練習問題です
- 二 熟語パズル (75～76)
表の中から漢字の熟語を探し当てるパズルゲームのシートです。難しい場合に使える「熟語リスト」もついています。点線で折って使う工夫もできます。解答には、熟語の意味もついているので、それぞれの熟語の意味の確認もできるシートです。
- 三 文学パズル (77～78)
表の字数のあてはまる言葉を「語群」の中から探し当てるゲームのシートです。解答には、あてはまる語の解説もついているので、それぞれの言葉について確認もできます。

私	
と	私
同	の
じ	好
で	き
、	な
こ	花
の	は
花	、
が	チ
好	ユ
き	ー
な	リ
よ	ッ
う	プ
で	で
す	す
。	。
	母
	も

- ① ・句点(。)、読点(、)などの符号はそれぞれ二マスに一字分あてる。
 ・句読点が行の最初になつてしまう場合は、前の行の最後のマスに、文字と一緒にいれる。
 ・拗音(ちゅ・きゃなど)や、促音(っ)も、一マスに一字ずつ入れる。

い	
た	あ
(の
「	日
シ	、
ロ	ま
」	り
は	子
ま	が
り	「
子	シ
の	ロ
飼	」
い	に
犬	エ
」	サ
	を
	や
	っ
	て

- ② ・「」(かぎかっこ)、() (かっこ)などの符号は、それぞれ二マスに一字分あてる。
 ・ただし、

。

、

。

、

。

、

。

、

。

、

。

などの場合は、原則、まとめて二マスに入れる。

と	「	「	
、	ど	あ	僕
い	う	り	は
つ	い	が	友
も	た	と	人
言	し	う	と
葉	ま	」	、
を	し		
交	て		
わ	!		
し	」		
て			
い			
た			
。			

- ③ ・原則として会話は「」でくくり、行を改める。
 ・会話の初めのかぎかっこは、一マス目に書く。
 ・「!」や「?」などの符号はそれぞれ二マスに一字いれる。

あ	
る	感
。	謝
私	の
は	言
、	葉
今	
後	
も	そ
信	れ
じ	は
て	、
い	最
き	も
た	大
い	切
:	な
:	も
。	の
	で

- ④ ・点線(⋯)、中線(――)は、原則として、二マス分にあてる。
 ・点線は二マスに三ポイント入れ、それを二マス続けるのが普通。

人	
の	職
仕	場
事	体
の	験
大	で
変	様
さ	々
を	な
学	仕
ぶ	事
こ	を
と	経
が	験
で	し
き	、
た	職
。	場
	の
	人

- ⑤ ・「々」がマスの先頭に来る場合は、その前に使われた漢字を繰り返し書く。

組 番 ()

次の①から⑤の文章を、原稿用紙の使い方にならって書きうつしなさい。

※すべて段落の書き出しとして、最初の「マス」をあけること。

① 今日の三時のおやつは、キャラメルだった。甘い物を食べると僕は幸せな気分になる。

② 「紙」と「髪」、どちらも「かみ」と読む漢字だが、意味は全く異なる。

③ 私が毎朝公園で走っていると、「頑張れ!」「応援しているよ。」と、声をかけてくれる人たちがいる。

④ 絆——それが固く結ばれていたからこそ、この試合に勝つことができた。

⑤ いつものように窓を開けると、真っ白な世界がそこに広がっていた……。

甘		今	
い		日	
物		の	
を		三	
食		時	
べ		の	
る		お	
と		や	
僕		つ	
は		は	
幸		、	
せ		キ	
な		ヤ	
気		ラ	
分		メ	
に		ル	
な		だ	
る		っ	
。		た	
		。	
		た	

- ① 句点(。)、読点(、)などの符号はそれぞれ一マスに一字分あてる。
 ・句読点が行の最初になってしまふ場合は、前の行の最後のマスに、文字と一緒にいれる。
 ・拗音(ちゅ・きゃ など)や、促音(っ)も、一マスに一字ずつ入れる
 ・数字は縦書きの時、漢数字を使う。一マスに一字ずつ入れる。

字		「	
だ		紙	
が		、	
		と	
意		「	
味		髪	
は		、	
全		ど	
く		ち	
異		ら	
な		も	
る		「	
		か	
		み	
		」	
		と	
		読	
		む	
		漢	

- ② 「」(かぎかっこ)、() (かっこ)などの符号は、それぞれ一マスに一字分あてる。
 ・ただし、

。

、

、

、

。

、

、

などの場合は、原則、まとめて一マスに入れる。

と	「	「	
、	応	頑	私
声	援	張	が
を	し	れ	毎
か	て	!	朝
け	い	」	公
て	る		園
く	よ		で
れ	」		走
る			っ
人			て
た			い
ち			る
が			と
い			、
る			
。			

- ③ 原則として会話は「」でくくり、行を改める。
 ・会話の初めのかぎかっこは、一マス目に書く。
 ・! や ? などの符号はそれぞれ一マスに一字いれる。

こ		絆	
の		」	
試		」	
合		そ	
に		れ	
勝		が	
つ		固	
こ		く	
と		結	
が		ば	
で		れ	
き		て	
た		い	
。		た	
		か	
		ら	
		こ	
		そ	
		、	

- ④ ・中線(――)は、原則として、二マス分にあてる。
ダッシュ

界			
が	い		
そ	つ		
こ	も		
に	の		
広	よ		
が	う		
っ	に		
て	窓		
い	を		
た	開		
：	け		
：	る		
。	と		
	、		
	真		
	っ		
	白		
	な		
	世		

- ⑤ ・点線(……)は一マスに $\boxed{\text{。}}$ 三点入れ、それを二マス続けるのが普通。

二、話し言葉・書き言葉

中学校国語(中一)学びノート 話し言葉と書き言葉 練習1

組 番 ()

次の話し言葉を、作文にふさわしい書き言葉 または正しい言葉に直さない。

- ① いっぱい ()
- ② ○○したいなと思う。 ()
- ③ ○○じゃないと思う。 ()
- ④ あと、 ()
- ⑤ いい ()
- ⑥ ○○しなきゃならない。 ()
- ⑦ なので、 ()
- ⑧ ですから、 ()
- ⑨ こないだ ()
- ⑩ ○○してる。 ()

次の話し言葉を、作文にふさわしい書き言葉 または正しい言葉に直さない。

- ① いっぱい ↓ たくさん・大量に・山ほど など
- ② ○○したいと思う。 ↓ ○○したいと思う。 ※「な」は入れない。
- ③ ○○じゃないと思う。 ↓ ○○ではないと思う。
- ④ あと、 ↓ それから・また、そして など
- ⑤ いい ↓ 良い・よい
- ⑥ ○○しなきゃならない。 ↓ ○○しなければならない。
- ⑦ なので、 ↓ だから、したがって、 など
- ⑧ ですから、 ↓ だから、したがって、 など
- ⑨ こないだ ↓ このあいだ
- ⑩ ○○してる。 ↓ ○○している。

組 番 ()

次の話し言葉を、作文にふさわしい書き言葉 または正しい言葉に直しなさい。

- ① ○○しちやう。()
- ② 超○○ ()
- ③ わたし的には、()
- ④ すごくおいし。()
- ⑤ そうゆう○○。()
- ⑥ やっぴら・やっぴて ()
- ⑦ ちゃんと ()
- ⑧ 来れる ()
- ⑨ 見れる ()
- ⑩ 食べれる ()

次の話し言葉を、作文にふさわしい書き言葉 または正しい言葉に直さない。

- ① ○○○ちやう。 ↓ ○○○てしまう。
- ② 超○○ ↓ とても○○○・非常に○○○ など
- ③ わたし的には、 ↓ わたしとしては、
- ④ すごいおいしい。 ↓ すごくおいしい。
- ⑤ そうゆう○○○ ↓ そういう○○○
- ⑥ やっぱり・やっぱし ↓ やはり
- ⑦ ちゃんと ↓ きちんと・しっかり など
- ⑧ 来れる ↓ 来られる ※⑧～⑨は「ら」抜き言葉
- ⑨ 見れる ↓ 見られる
- ⑩ 食べれる ↓ 食べられる

三、作文の練習（接続詞の活用）

中学校国語（中一）学びノート 作文（接続詞の活用） 練習1

組 番（

）

問一 次の文章①～④の意味がつながるように、アイにあてはまる文を自分で考えて書き入れなさい。

- ① 僕はいつも早く寝て、朝は早く起きることにしています。
- ② ところが、昨晩は読書に夢中になって遅くまで起きていました。
- ③ だから、僕はア.
- ④ そのため、僕は学校へ遅刻してしまいました。

ア

- ① 明日は待ちに待った体育祭です。
- ② 僕は寝る前にテレビの天気予報を見ました。
- ③ すると、予報ではイと言っていました。
- ④ だから僕はてるてる坊主を作って寝ました。

イ

問二 次の文章①～④の意味がつながるように接続する語句に注目しながら、ウエオにあてはまる文を自分で考えて書き入れなさい。

- ① 僕と彼はとても仲がよい。
- ② だから、ウ.
- ③ しかし、エ.
- ④ なぜならば、オ.

ウ

エ

オ

問一 次の文章①～④の意味がつながるように、ア イ にあてはまる

文を自分で考えて書き入れなさい。

- ① 僕はいつも早く寝て、朝は早く起きることにしています。
- ② ところが、昨晩は読書に夢中になって遅くまで起きていました。
- ③ だから、僕はア。
- ④ そのため、僕は学校へ遅刻してしまいました。

ア 朝ねぼうをしてしまいました。

※遅くまで起きているとどうなるか、なぜ学校へ遅刻してしまうのかを考えると、アにはどのような文が入るか予想がつかます。

- ① 明日は待ちに待った体育祭です。
- ② 僕は寝る前にテレビの天気予報を見ました。
- ③ すると、予報ではイ。
- ④ だから僕はてるてる坊主を作って寝ました。

イ 雨がふるでしょう

※①で体育祭を楽しみにしていたことと、④のてるてる坊主を作っていることを考えると、「天気が悪い」内容が空らんに入ると考えられます。

問二 次の文章①～④の意味がつながるように接続する語句に注目しながら、ウ エ オ にあてはまる
文を自分で考えて書き入れなさい。

- ① 僕と彼はとても仲がよい。
- ② だから、ウ。
- ③ しかし、エ。
- ④ なぜならば、オ。

ウ 今まで一度もけんかをしたことがない

※「だから」は順接のため、アでは①の仲のよい様子が説明されると考えられます。

エ 昨日、僕は彼とけんかをした。

※「しかし」は逆接のため、僕と彼の仲が悪化する内容が考えられます。

オ 彼が僕の家族の悪口を言ったからだ。

※「なぜなら」は理由を説明する語句なので、③の内容の理由を説明します。

組 番 ()

問一 次の文章①～④の意味がつながるように、 にあてはまる文を自分で考えて書き入れなさい。

- ① 彼はいつも明るく元気に学校にやってくる。
- ② ところが、今日彼は風邪で学校を休んでいた。
- ③ だから、僕は。
- ④ すると、彼は自分の部屋のベッドでよく眠っていた。

ア

- ① 私は美術館の展覧会を観に出かけました。
- ② 美術館に到着すると入り口のはり紙が目に残りました。
- ③ そこにはと書かれていました。
- ④ それで、私はがっかりして家に帰りました。

イ

問二 次の文章①～④の意味がつながるように接続する語句に注目しながら、 にあてはまる文を自分で考えて書き入れなさい。

- ① 私は学校の給食が大好きです。
- ② だから、。
- ③ しかし、。
- ④ なぜならば、。

ウ

エ

オ

問一 次の文章①～④の意味がつながるように、ア イ にあてはまる

文を自分で考えて書き入れなさい。

- ① 彼はいつも明るく元気に学校にやって来る。
- ② ところが、今日彼は風邪で学校を休んでいた。
- ③ だから、僕はア。
- ④ すると、彼は自分の部屋のベッドでよく眠っていた。

ア 彼の家におみまいに行った。

※いつも元気な彼が風邪を引いて学校を休んだことと、④で彼の部屋に来ていることから、「彼の家に行く」内容が考えられます。

- ① 私は美術館の展覧会を観に出かけました。
- ② 美術館に到着すると入り口のはり紙が目に残りました。
- ③ そこにはイと書かれていました。
- ④ それで、私はがっかりして家に帰りました。

イ 本日は休館日です

※④でがっかりして帰ることから、はり紙の内容は楽しみにしていた展覧会をやっていたなかった(もしくは期待していたことが裏切られた)という内容が書かれていたと予想されます。

問二 次の文章①～④の意味がつながるように接続する語句に注目しながら、ウ エ オ にあてはまる文を自分で考えて書き入れなさい。

- ① 私は学校の給食が大好きです。
- ② だから、ウ。
- ③ しかし、エ。
- ④ なぜならば、オ。

ウ いつも残さず食べます。

*「だから」は順接のため、アでは①の大好きな給食について肯定的な文が入ると考えられます。

エ 今日給食を残してしまいました。

*「しかし」は逆接のため、大好きな給食について、いつもと違うことが起こる内容が考えられます。

オ おなかの調子が悪かったからです。

※「なぜなら」は理由を説明する語句なので、③の内容の理由を説明します。

組 番 ()

問一 次の①～④の文には間違っているところがあります。

□の中に正しい文を書きなさい。

①私の希望は、○○高校に進学したいです。
↓私の希望は、

[]

②ぼくが試合のときに注意することは、緊張しすぎないようにする。
↓ぼくが試合のときに注意することは、

[]

③彼の一番の好物はカレーが好きだ。
↓彼の一番の好物は

[]

④この音楽は、誰によって書いたかわからない。
↓この音楽は、誰によって

[]
わからない。

問二 次の文の 線部を 線部の語に合うように直して書きなさい。

①まさか君は失敗する。
↓まさか君は失敗

[]

②ぜひ、その集会に参加する。
↓ぜひ、その集会に参加

[]

③(大会は延期だった。)なぜなら、昨日は雨が降っていた。
↓(大会は延期だった。)なぜなら、昨日は雨が降って

[]

問三 次の文は読点(・)を打つ位置によって意味が変わります。ア、イの意味になるように、それぞれ読点を打ちなさい。

①ぼくは姉と弟にプレゼントをあげた。

↓ア あげたのは
「ぼくと姉」
ぼくは 姉と 弟に プレゼントを あげた。

↓イ あげたのは
「ぼく」
ぼくは 姉と 弟に プレゼントを あげた。

②先生は大きな声で騒いでいる生徒を注意した。

↓ア 大きな声を出して
いるのは「先生」
先生は 大きな 声で 騒いでいる 生徒を 注意した。

↓イ 大きな声を出して
いるのは「生徒」
先生は 大きな 声で 騒いでいる 生徒を 注意した。

③昨日注文をした品物が家に届いた。

↓ア 昨日
「注文をした」
昨日 注文を した 品物が 家に 届いた。

↓イ 昨日
「家に届いた」
昨日 注文を した 品物が 家に 届いた。

問一 次の①～④の文には間違っているところがあります。□の中に正しい文を書きなさい。

- ①私の希望は、○○高校に進学したいです。
↓私の希望は、

○○高校に進学することです。

- ②ぼくが試合のときに注意することは、緊張しすぎないようにする。
↓ぼくが試合のときに注意することは、

緊張しすぎないようにすることだ。

- ③彼の一番の好物はカレーが好きだ。
↓彼の一番の好物は

カレーだ。

- ④この音楽は、誰によって書いたかわからない。
↓この音楽は、誰によって

書かれたか

わからない。

問二 次の文の 線部を 線部の語に合うように直して書きなさい。

- ①まさか君は失敗する。
↓まさか君は失敗

するまい。

※「しないでろう」も可。

- ②ぜひ、その集会に参加する。
↓ぜひ、その集会に参加

したい。

- ③(大会は延期だった。)なぜなら、昨日は雨が降っていた。
↓(大会は延期だった。)なぜなら、昨日は雨が降って

いたからだ。

問三 次の文は読点(、)を打つ位置によって意味が変わります。ア、イの意味になるように、それぞれ読点を打ちなさい。

- ①ぼくは姉と弟にプレゼントをあげた。
↓ア あげたのは

「ぼくと姉」

ぼくは 姉と、弟に プレゼントを あげた。

- ↓イ あげたのは

「ぼく」

ぼくは、姉と 弟に プレゼントを あげた。

- ②先生は大きな声で騒いでいる生徒を注意した。
↓ア 大きな声を出して

いるのは「先生」

先生は 大きな 声で、騒いでいる 生徒を 注意した。

- ↓イ 大きな声を出して

いるのは「生徒」

先生は、大きな 声で 騒いでいる 生徒を 注意した。

- ③昨日注文をした品物が家に届いた。
↓ア 昨日

「注文をした」

昨日 注文を した 品物が、家に 届いた。

- ↓イ 昨日

「家に届いた」

昨日、注文を した 品物が 家に 届いた。

組 番 ()

問一 次の①～③の文には間違っているところがあります。

□の中に正しい文を書きなさい。

①私の夢は、スポーツ選手になりたいです。

↓
□ スポーツ選手になりたいです。

②次にとまるのは、所沢駅前にとまります。

↓次にとまるのは、
□

③前回失敗した原因は、準備不足だったことが原因だ。

↓
□ 準備不足だったことが原因だ。

問二 次の文の 線部を 線部の語に合うように直して書きなさい。

①全然昨日までと変わる。

↓全然昨日までと
□

②たとえ、雨が降ると、実施します。

↓たとえ、雨が
□ 実施します。

③何度失敗しても、決して、挑戦をする。

↓何度失敗しても、決して、挑戦を
□

④まるで野球選手ぐらゐの立派な体つきをしている。

↓まるで野球選手
□ 立派な体つきをしている。

問三 次の文は読点(、)を打つ位置によって意味が変わります。ア、イの意味になるように、

それぞれ読点を打ちなさい。

①国語係の山下君と川上君がプリントを配った。

↓ア 国語係は
「山下君」
□ 国語係の 山下君と 川上君が プリントを 配った。

↓イ 国語係は

「山下君と川上君」
□ 国語係の 山下君と 川上君が プリントを 配った。

②ボールペンと鉛筆を二本買ってきなさい。

↓ア ボールペンを一本と
鉛筆を二本
□ ボールペンと 鉛筆を 二本 買って きなさい。

↓イ ボールペンと鉛筆

を二本ずつ
□ ボールペンと 鉛筆を 二本 買って きなさい。

③倉庫にある荷物を運ぶ。

↓ア 「倉庫に」
荷物を運ぶ
□ 倉庫に ある 荷物を 運ぶ。

↓イ 「倉庫から」

□ 倉庫に ある 荷物を 運ぶ。

問一 次の①〜③の文には間違っているところがあります。□の中に正しい文を書きなさい。

①私の夢は、スポーツ選手になりたいです。

私は、

スポーツ選手になりたいです。

②次にとまるのは、所沢駅前にとまります。

↓次にとまるのは、

所沢駅前です。

③前回失敗した原因は、準備不足だったことが原因だ。

↓

前回失敗したのは、

準備不足だったことが原因だ。

※「前回の失敗は」も可。

問二 一次の文の 線部を 線部の語に合うように直して書きなさい。

①全然大昨日までと変わる。

↓全然大昨日までと

変わらない。

②たとえ、雨が降ると、実施します。

↓たとえ、雨が

降っても

実施します。

③何度失敗しても、決して、挑戦をする。

↓何度失敗しても、決して、挑戦を

やめない。

④まるで野球選手ぐらいいの立派な体つきをしている。

↓まるで野球選手

のよけいな

立派な体つきをしている。

問三 次の文は読点(、)を打つ位置によって意味が変わります。ア、イの意味になるように、それぞれ読点を打ちなさい。

①国語係の山下君と川上君がプリントを配った。

↓ア 国語係は

「山下君」

国語係の 山下君と、川上君が プリントを 配った。

↓イ 国語係は

「山下君と川上君」

国語係の 山下君と 川上君が、プリントを 配った。

②ボールペンと鉛筆を二本買ってきなさい。

↓ア ボールペンを一本と

鉛筆を二本

ボールペンと、鉛筆を 二本 買って きなさい。

↓イ ボールペンと鉛筆

を三本ずつ

ボールペンと 鉛筆を 二本、買って きなさい。

③倉庫にある荷物を運ぶ。

↓ア 「倉庫に」

荷物を運ぶ

倉庫に、ある 荷物を 運ぶ。

↓イ 「倉庫から」

荷物を運ぶ

倉庫に ある 荷物を、運ぶ。

組 番 ()

①～⑩で用いられている表現技法と同じ表現技法が用いられているものをア～コから選び、記号で答えなさい。

①とはのみどりを
とはのみどりを

②喜助はにっこり笑った。

③いつまでも降り続ける雪。

④雨ニモマケズ
風ニモマケズ

⑤病人の手でも握るように握手をした。

⑥犬がワンワンと激しくほえる。

⑦そのとき私は気づいた。だまされたのだ、と。

⑧船が散歩する。

⑨彼は成長しているのに、私は……。

⑩彼女は野に咲く花だ。

- ア まるでうそのような話だ。(直喩)
- イ 都会は海だ。(隠喩)
- ウ 海が眠っている。(擬人法)
- エ 火がゆらゆらと揺れる。(擬態語)
- オ ドアをコンコンとノックする。(擬声語)
- カ ゆっくりゆっくり歩いた。(反復法)
- キ あなたは笑った。大きな声で。(倒置法)
- ク 太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪降りつむ。太郎を眠らせ、次郎の屋根に雪降りつむ。(対句法)
- ケ あれはいつのことだっただろうか……。 (省略法)
- コ 木に止まる一ぴきの鳥。(体言止め)

/10
(1点×10)

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩

①～⑩で用いられている表現技法と同じ表現技法が用いられているものをア～コから選び、記号で答えなさい。

①とはのみどりを
とはのみどりを

②喜助はにっこり笑った。

③いつまでも降り続ける雪。

④雨ニモマケズ
風ニモマケズ

⑤病人の手でも握るように握手をした。

⑥犬がワンワンと激しくほえる。

⑦そのとき私は気づいた。だまされたのだ、と。

⑧船が散歩する。

⑨彼は成長しているのに、私は……。

⑩彼女は野に咲く花だ。

ア まるでうそのような話だ。（直喩）

イ 都会は海だ。（隠喩）

ウ 海が眠っている。（擬人法）

エ 火がゆらゆらと揺れる。（擬態語）

オ ドアをコンコンとノックする。（擬声語）

カ ゆっくりゆっくり歩いた。（反復法）

キ あなたは笑った。大きな声で。（倒置法）

ク 太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪降りつむ。

ケ 次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪降りつむ。（対句法）

コ あれはいつのことだっただろうか……。 （省略法）

木に止まる一ぴきの鳥。（体言止め）

①	カ
②	エ
③	コ
④	ク
⑤	ア
⑥	オ
⑦	キ
⑧	ウ
⑨	ケ
⑩	イ

組 番 ()

①～⑩で用いられている表現技法をア～コから選び、記号で答えなさい。

①きらきらと輝く。

②静かな、静かな森を歩く。

③他人をはげますことはできても、自分をはげますことは難しい。

④例年よりも暑い夏。

⑤雷がゴロゴロと鳴る。

⑥体をきたえて、鉄のように固くなった。

⑦風がせなかを押す。

⑧過ぎしやすい日が続いた、昨日までは。

⑨君はぼくの太陽だ。

⑩まさかこんなことが起こるとは……。

- ア 直喩
- イ 隠喩
- ウ 擬人法
- エ 擬態語
- オ 擬声語
- カ 反復法
- キ 倒置法
- ク 対句法
- ケ 省略法
- コ 体言止め

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩

/10

(1点×10)

①～⑩で用いられている表現技法をア～コから選び、記号で答えなさい。

①きらきらと輝く。

②静かな、静かな森を歩く。

③他人をはげますことはできても、自分をはげますことは難しい。

④例年よりも暑い夏。

⑤雷がゴロゴロと鳴る。

⑥体をきたえて、鉄のように固くなった。

⑦風がせなかを押す。

⑧過ぎしやすい日が続いた、昨日までは。

⑨君はぼくの太陽だ。

⑩まさかこんなことが起こるとは……

- ア 直喩
- イ 隠喩
- ウ 擬人法
- エ 擬態語
- オ 擬声語
- カ 反復法
- キ 倒置法
- ク 対句法
- ケ 省略法
- コ 体言止め

①	エ
②	カ
③	ク
④	コ
⑤	オ
⑥	ア
⑦	ウ
⑧	キ
⑨	イ
⑩	ケ

組 番 ()

○詩の種類

1 内容上の分類

- ・ 叙情詩：作者の感情・感動を中心に表現した詩。
- ・ 叙事詩：歴史上の事件などを物語風に表現した詩。

2 文体(用語)上の分類

- ・ 文語詩：文語(古語)で書かれた詩。
- ・ 口語詩：口語(現代語)で書かれた詩。

3 形式上の分類

- ・ 定型詩：各行の音数にきまりのある詩。
- ・ 自由詩：音数にとられない自由な形の詩。
- ・ 散文詩：普通の文章の形で書かれた詩。

※文体上の分類、形式上の分類を合わせて、口語自由詩、文語定型詩などということが多い。

問一 次の詩を読んで、あとの問に答えなさい。

紙風船 黒田三郎

落ちて来たら
今度は
もつと高く
もつともつと高く
何度でも
打ち上げよう
美しい
願いごとのように

(1) この詩は何連からできていますか。
() 連

(2) この詩の種類を次のア～エから選び、記号に丸をつけなさい。

- ア 文語定型詩 イ 文語自由詩
ウ 口語定型詩 エ 口語自由詩

(3) 「もつともつと」「願いごとのように」で用いられている表現を、それぞれあとのア～エから選び、記号で答えなさい。

- 「もつともつと」 ()
「願いごとのように」 ()

- ア 比喩 イ 倒置法 ウ 反復法 エ 対句法

(4) 「何度でも／打ち上げよう」とあるが、何を打ち上げようというのか、書きなさい。

()

/10

(2点×5)

○詩の種類

1 内容上の分類

- ・ 叙情詩：作者の感情・感動を中心に表現した詩。
- ・ 叙事詩：歴史上の事件などを物語風に表現した詩。

2 文体(用語)上の分類

- ・ 文語詩：文語(古語)で書かれた詩。
- ・ 口語詩：口語(現代語)で書かれた詩。

3 形式上の分類

- ・ 定型詩：各行の音数にきまりのある詩。
- ・ 自由詩：音数にとられない自由な形の詩。
- ・ 散文詩：普通の文章の形で書かれた詩。

※文体上の分類、形式上の分類を合わせて、口語自由詩、文語定型詩などといふことが多い。

問一 次の詩を読んで、あとの問に答えなさい。

紙風船 黒田三郎
 落ちて来たら
 今度は
 もっと高く
 もっともつと高く
 何度でも
 打ち上げよう
 美しい
 願いごとのように

(1) この詩は何連からできていますか。

() (二) (連)

(2) この詩の種類を次のア～エから選び、記号に丸をつけなさい。

- ア 文語定型詩 イ 文語自由詩
 ウ 口語定型詩 ⑤ 口語自由詩

(3) 「もつともつと」「願いごとのように」で用いられている表現を、それぞれあとのア～エから選び、記号で答えなさい。

- 「もつともつと」 (ウ) ()
 「願いごとのように」 (ア) ()

- ア 比喩 イ 倒置法 ウ 反復法 エ 対句法

(4) 「何度でも／打ち上げよう」とあるが、何を打ち上げようというのか、書きなさい。

() 紙風船 ()

組 番 ()

問一 次の詩を読んで、あとの問に答えなさい。

小景異情 その2 室生犀星

ふるさとは遠きにありて思ふもの
 そして悲しくうたふもの
 よしや
 うらぶれて異土の乞食となるとても
 帰るところにあるまじや
 ひとり都のゆふぐれに
 ふるさとおもひ涙ぐむ
 そのこころもて
 遠きみやこにかへらばや
 遠きみやこにかへらばや

問二 次の詩を読んで、あとの問に答えなさい。

忘れもの 高田 敏子

入道雲にのって
 夏休みはいつてしまった
 「サヨナラ」のかわりに
 素晴らしい夕立をふりまいて
 けさ 空はまつさお
 木々の葉の一枚一枚が
 あたらしい光とあいさつをかわしている
 だがキミ！ 夏休みよ
 もう一度 もどってこないかな
 忘れものをとりにさ
 迷い子のセミ
 さびしそうな麦わら帽子
 それから ぼくの耳に
 くつついて離れない波の音

(1) この詩の種類を次のア～エから選び、
 記号に丸をつけなさい。

- ア 文語定型詩 イ 文語自由詩
 ウ 口語定型詩 エ 口語自由詩

(2) 「遠きにありて思ふもの／そして悲しくうたふもの」で用いられている表現を
 あとのア～エから選び、記号に丸をつけ
 なさい。

- ア 比喩 イ 倒置法
 ウ 反復法 エ 対句法

(1) この詩の種類を次のア～エから選び、
 記号に丸をつけなさい。

- ア 文語定型詩 イ 文語自由詩
 ウ 口語定型詩 エ 口語自由詩

(2) 「一枚一枚が」あいさつをかわしてい
 る」で用いられている表現を、あとのア
 ～エから選び、記号で答えなさい。

- 「あいさつをかわしている」 () ()
 ア 擬態語 イ 体言止め
 ウ 擬声語 エ 擬人法

(3) 「忘れもの」は「セミ」、「麦わら帽子」
 と何ですか。詩の中から三字で書き抜き
 なさい。 () ()

/10
 (2点×5)

問一 次の詩を読んで、あとの問に答えなさい。

小景異情 その2 室生犀星

ふるさとは遠きにありて思ふもの
 そして悲しくうたふもの
 よしや
 うらぶれて異土の乞食となるとも
 帰るところにあるまじや
 ひとり都のゆふぐれに
 ふるさとおもひ涙ぐむ
 そのころもて
 遠きみやこにかへらばや
 遠きみやこにかへらばや

(1) この詩の種類を次のア～エから選び、記号に丸をつけなさい。

- ア 文語定型詩 ④ 文語自由詩
 ウ 口語定型詩 エ 口語自由詩

(2) 「遠きにありて思ふもの／そして悲しくうたふもの」で用いられている表現を、あとのア～エから選び、記号に丸をつけなさい。

- ア 比喩 イ 倒置法
 ウ 反復法 ⑤ 対句法

問二 次の詩を読んで、あとの問に答えなさい。

忘れもの 高田 敏子

入道雲にのって
 夏休みはいつてしまった
 「サヨナラ」のかわりに
 素晴らしい夕立をふりまいて
 けさ 空はまつさお
 木々の葉の一枚一枚が
 あたらしい光とあいさつをかわしている
 だがキミ！ 夏休みよ
 もう一度 もどってこないかな
 忘れものをとりにさ
 迷い子のセミ
 さびしそうな麦わら帽子
 それから ぼくの耳に
 くつついて離れない波の音

(1) この詩の種類を次のア～エから選び、記号に丸をつけなさい。

- ア 文語定型詩 イ 文語自由詩
 ウ 口語定型詩 ⑤ 口語自由詩

(2) 「一枚一枚が」あいさつをかわしている」で用いられている表現を、あとのア～エから選び、記号で答えなさい。

- 「あいさつをかわしている」(エ)
 ア 擬態語 イ 体言止め
 ウ 擬声語 エ 擬人法

(3) 「忘れもの」は「セミ」、「麦わら帽子」と何ですか。詩の中から三字で書き抜きなさい。(波の音)

七、歴史的仮名遣い

中学校国語(中一) 学びノート 歴史的仮名遣い 練習1

年 組 番 ()

歴史的仮名遣い ↓ 現代仮名遣い ポイント

(1) ゐ・ゑ・を ↓ い・え・お

(2) ぢ・づ ↓ じ・ず

(3) 語頭以外に、は・ひ・ふ・へ・ほ (は行) がある場合
↓ わ・い・う・え・お (わ行)

(4) む ↓ ん

(5) くわ・ぐわ ↓ か・が

(6) ア段＋う(ふ) ↓ 才段＋う

(7) イ段＋う(ふ) ↓ イ段＋ゆ＋う

(8) エ段＋う(ふ) ↓ イ段＋よ＋う

問一 次の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しなさい。

- ① ゐど ↓ () ② ふぢ ↓ ()
- ③ あはれ ↓ () ④ いふ ↓ ()
- ⑤ やむごとなく ↓ () ⑥ まうす ↓ ()
- ⑦ うつくしう ↓ () ⑧ けふ ↓ ()

【 語句の意味 】

③ あはれ ↓ しみじみとした趣がある

⑤ やむごとなく ↓ たいへん尊い

⑦ うつくしう ↓ かわいらしい

問一 次の古文を読み、—— 練部の言葉を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

つれづれなるままに、日暮らし、硯に①向かひて心につりゆくよしなし事を、
そこはかとなく書きつくれば、②あやしうこそものぐるほしけれ。

- ① () () ② () ()

10
(1点×10)

歴史的仮名遣い ↓ 現代仮名遣い ポイント

(1) ゑ・を ↓ い・え・お

(2) ぢ・づ ↓ じ・ず

(3) 語頭以外に、は・ひ・ふ・へ・ほ (は行) がある場合
↓ わ・い・う・え・お (わ行)

(4) む ↓ ん

(5) くわ・ぐわ ↓ か・が

(6) ア段＋う(ふ) ↓ 才段＋う

(7) イ段＋う(ふ) ↓ イ段＋ゆ＋う

(8) エ段＋う(ふ) ↓ イ段＋よ＋う

問一 次の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しなさい。

- ① ゐど ↓ (いど) (ふじ)
- ③ あはれ ↓ (あわれ) (いふ)
- ⑤ やむごとなく ↓ (やんごとなく) (もつす)
- ⑦ うつくしう ↓ (うつくしゅう) (きょう)
- ② ふぢ ↓ (ふじ)
- ④ いふ ↓ (いふ)
- ⑥ まうす ↓ (もつす)
- ⑧ けふ ↓ (きょう)

【 語句の意味 】

③ あはれ ↓ しみじみとした趣がある

⑤ やむごとなく ↓ たいへん尊い

⑦ うつくしう ↓ かわいらしい

問一 次の古文を読み、—— 練部の言葉を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

つれづれなるままに、日暮らし、硯に①向かひて心につりゆくよしなし事を、
そこはかとなく書きつくれば、②あやしうこそものぐるほしけれ。

- ① (むかいて) (む) ② (あやしゅう) (む)

年 組 番 ()

歴史的仮名遣い ↓ 現代仮名遣い ポイント

- (1) め・ゑ・を ↓ い・え・お
- (2) ぢ・づ ↓ じ・ず
- (3) 語頭以外に、は・ひ・ふ・へ・ほ(は行)がある場合
↓ わ・い・う・え・お(わ行)
- (4) む ↓ ん
- (5) くわ・ぐわ ↓ か・が
- (6) ア段十う(ふ) ↓ 才段十う
- (7) イ段十う(ふ) ↓ イ段十ゆ十う
- (8) エ段十う(ふ) ↓ イ段十よ十う

問一 次の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しなさい。

- ① みづ ↓ () ② ゆゑ ↓ ()
- ③ はづかし ↓ () ④ いづれ ↓ ()
- ⑤ くわし ↓ () ⑥ やうやう ↓ ()
- ⑦ たまふ ↓ () ⑧ てふてふ ↓ ()

【 語句の意味 】

- ③ はづかし ↓ こちらが恥ずかしくなるほど優れる。
- ⑥ やうやう ↓ しだいに。だんだんと。
- ⑦ たまふ ↓ くださる。いただく。

問一 次の古文を読み、線部の言葉を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

夏は夜。月のころはさらなり。やみも①なほ、螢の多く飛とびちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも②をかし。

- ① () () ② () ()

／ 10
(2点×5)

歴史的仮名遣い→現代仮名遣い ポイント

- (1) め・ゑ・を ↓ い・え・お
- (2) ぢ・づ ↓ じ・ず
- (3) 語頭以外に、は・ひ・ふ・へ・ほ(は行)がある場合
↓ わ・い・う・え・お(わ行)
- (4) む ↓ ん
- (5) くわ・ぐわ ↓ か・が
- (6) ア段十う(ふ) ↓ 才段十う
- (7) イ段十う(ふ) ↓ イ段十ゆ十う
- (8) エ段十う(ふ) ↓ イ段十よ十う

問一 次の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しなさい。

- ① みづ ↓ (みず) ()
- ② ゆゑ ↓ (ゆえ) ()
- ③ はづかし ↓ (はずかし) ()
- ④ いづれ ↓ (いづれ) ()
- ⑤ くわし ↓ (かし) ()
- ⑥ やうやう ↓ (ようよう) ()
- ⑦ たまふ ↓ (たもつ) ()
- ⑧ てふてふ ↓ (ちようちよう) ()

【 語句の意味 】

- ③ はづかし ↓ こちらが恥ずかしくなるほど優れる。
- ⑥ やうやう ↓ しだいに。だんだんと。
- ⑦ たまふ ↓ くださる。いただく。

問一 次の古文を読み、線部の言葉を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

夏は夜。月のころはさらなり。やみも①なほ、螢の多く飛とびちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも②をかし。

- ① (な お) ()
- ② (お かし) ()